

# Oak キャピタル株式会社

第152期 中間報告書

2012年4月1日~2012年9月30日



OAK  
CAPITAL

## 株主ならびに投資家の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素より温かいご支援と格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

わが国の経済環境は、欧州の財政危機問題や世界経済低迷への不安、長期化する円高等の影響から依然として不透明な状況が続いております。こうした国内外の経済動向に大きく左右される株式市場において、国内に上場する企業の約7割がPBR（株価純資産倍率）1倍を割り込んでいる状況です。また、平成24年9月末現在の上場企業3,532社の内、約4割の1,300社程が時価総額50億円未満となっております。しかしながら、新興市場や中堅上場企業の中には優れた技術力やユニークな製品開発力に強みを持つ企業が数多くあり、潜在能力を引き伸ばすことで企業価値を高めることができます。

このような状況下において、当社の使命は、新興市場に上場する企業ならびに中堅上場企業を対象に、企業価値向上に向けた「資本政策に伴う資金調達」および「成長戦略の構築支援」であると考えております。また、当社は、企業の優位性を活かした新たな事業の創出と投資を組み合わせた「事業プロジェクト投資」を通じて、投資先の企業価値向上と成長支援に取り組んでおります。

これからも、当社は投資事業を通して「企業と人の未来に向かって 価値創造のパートナー」として役割を果たしていきたいと考えております。引き続きご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成24年12月  
代表取締役会長兼CEO 竹井博康

### 最近のトピックから

#### 数多くの優良案件に恵まれる

**Q** 10月に資金調達の発表をし、その用途は新規投資とのことですが、投資案件は何社くらいあるのでしょうか？

**A** 成約に向け準備中の案件が複数あります。現在の株式市場全体は、まだ低迷状態から脱却しきれていませんが、注意して調べてみると、潜在的な成長力がありながら株価が割安に放置されている優良な、新興や中堅の上場企業がたくさんあります。

**Q** 投資先への成長支援についてお聞かせください

**A** 当社は、単にお金を出すだけの投資ではなく、我々のノウハウとネットワークを駆使して相手先の成長を応援するための提案をセットにした投資手法を実践しております。具体的には成長戦略の策定と推進の支援、他社との提携の助言、営業協力等々、多岐にわたる活動が含まれます。なかでも、提携の助言や営業協力は我々のネットワークをフルに活かせる仕事で、場合によっては投資実行後でも、いいお話があればどんどん提案していきます。

### P/Lについて

#### 赤字は投資回収時期のずれによるもの

**Q** 第2四半期の赤字の理由は何ですか？

**A** 費用の発生と投資回収の時期が異なることによるものです。当社では、年間いくつかの銘柄の有価証券について投資回収をし、その総額がインベストメントバンキング事業の売上となります。一般の事業会社のように、物を作ったり、それを売ったりして、月次でコンスタントに売上が立つわけではありません。

### 業績の見通しについて

#### 業績予想開示に代わる、四半期開示の早期化方針

**Q** 今年から業績の見通しを公表しなくなりました

**A** 当社の事業は株式市場の変動による影響が極めて大きく、合理的な業績予想の算定が元々困難でありましたが、東京証券取引所のガイドラインに基づいて開示しておりました。当期より、このガイドラインが変更となり、業績予想を控えることといたしました。それに代え、投資家の皆さまのご判断により役立つようにと、四半期決算の迅速な開示に努めるとともに、合理的な予想が可能となった段階で速やかに開示を行うことにしております。

### 今後の方向性について

#### 株式市場の活性化に貢献

**Q** 下期以降に向けてのお考えをお聞かせください。

**A** 上期までに準備を進めてきた投資案件が実り、今後の成果に結びつくよう、引き続き注力してまいります。対象を新興市場に上場する企業や中堅上場企業を中心とする投資に切り替えて約3年、さらに、事業提案とのセットによる成長支援投資の考え方を採り入れてから1年半。これからさらにノウハウに磨きをかけ、我々の投資が結果として株式市場の活性化に少しでも貢献につながればと考えています。



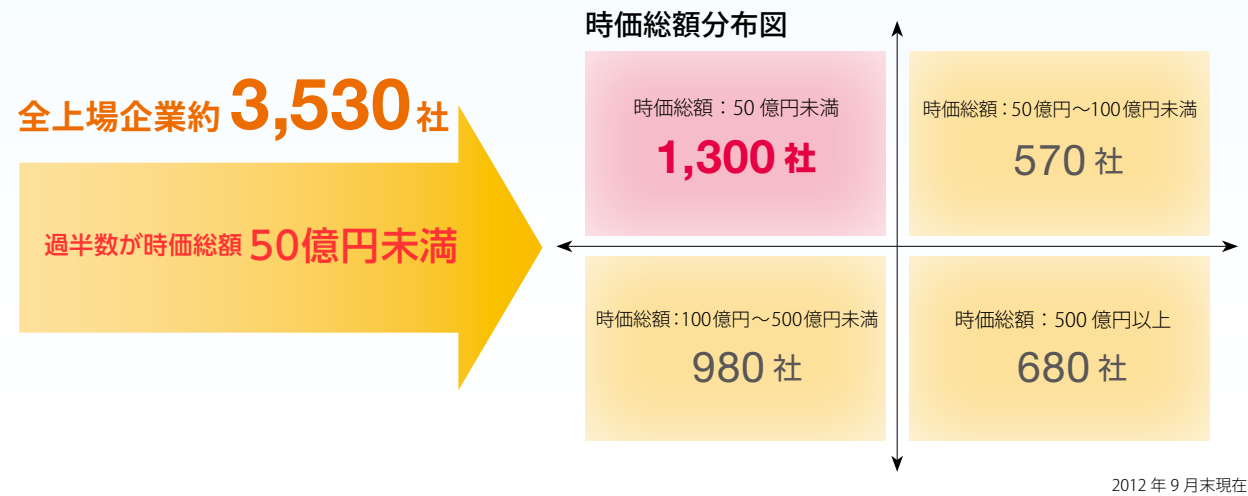
## 中小型上場株投資

成長資金の調達に悩む、新興市場に上場する企業や中堅上場企業を対象に、成長支援と組み合わせてエクイティ・ファイナンスの引受けを実施する上場投資会社は当社が初めてです。将来への可能性を秘めた、これら数多くの企業への注目が集まり、当社と同様のスタイルで中小型銘柄への投資を行う投資会社やファンドが増えてくること、それが「呼び水」となり資本市場の裾野が広がり、活性化につながっていくことを当社は願っております。

### ●●● 上場企業の時価総額はアンダーバリュー ●●●

#### 新興市場・中小型株市場 1,300社が投資検討対象

- 上場企業の 2,600 社が PBR1 倍以下
- 時価総額 50 億円未満の上場企業数は 1,300 社



## 成長支援

### 上場企業の経営戦略と成長シナリオを後押し



中小型上場株投資

事業プロジェクト投資

アドバイザー事業

1,300 社

新興上場企業  
中堅上場企業

財務強化

- 成長戦略の遂行に必要な資金調達

事業再生

- 期待される経営戦略・事業戦略の策定

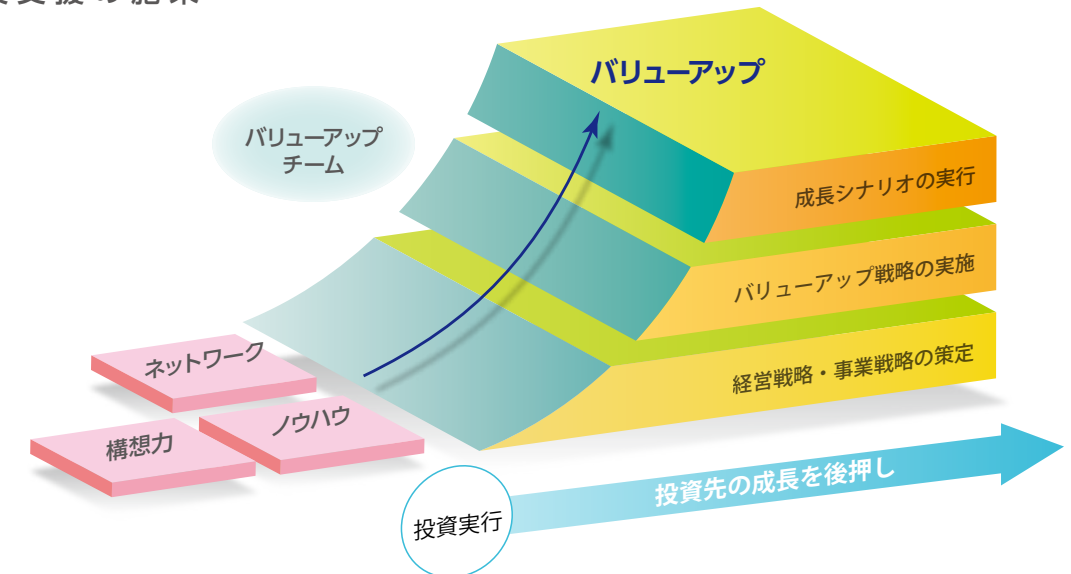
新規事業

- 成長シナリオに必要な新規事業開発

IR 強化

- 投資家への力強いメッセージの発信

### ■ 成長支援の施策



新興市場に上場する企業や中堅上場企業を主な対象とし、新規事業の企画・立案とエクイティ・ファイナンスの引受けによる資金提供を組み合わせた投資手法です。

- 新規収益源としてのビジネスモデルの構築
- 事業リスクとのバランスを考慮した成長シナリオの提案
- グローバル市場への進出の促進、M&A やアライアンス等の助言

事業プロジェクト投資の例

ハイブリッド郵便サービス  **Digital POST**

成長市場のスマートフォン関連のビジネスモデルを事業化した次世代通信のデジタル郵便事業を創出し、最先端のIT技術やオンデマンド印刷技術を持つ当社投資先ならびに日立システムズと共に合併事業を開始いたしました。同事業は、スマートフォンやパソコンから手紙を送ることができるサービスを提供しております。

□ 事業のイメージ



事業参加企業

当社投資先企業

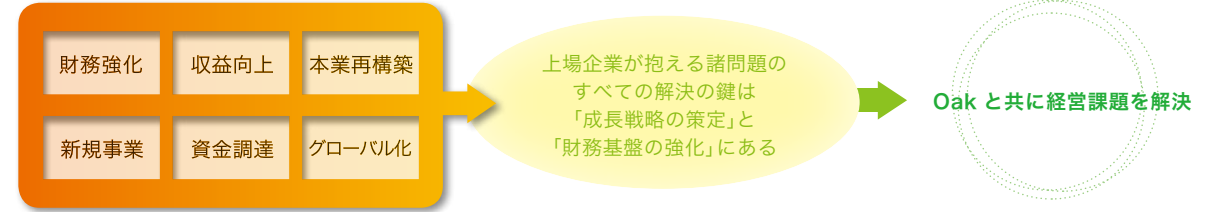
<b>HITACHI</b> 株式会社日立システムズ システム運用・構築	<b>FUJIFILM</b> 富士フイルム株式会社 画像処理技術開発	<b>FLIGHT</b> 株式会社フライトシステムコンサルティング アプリ開発・クレジットカード課金システム開発	<b>SOFTFRONT</b> 株式会社ソフトフロント 情報技術	<b>Lithmatic</b> 東京リスマテック株式会社 印刷・3D・デジタル画像事業	<b>アイフリーク</b> 株式会社アイフリーク デコレーションメールコンテンツ開発
--	---	---	---	--	--

 **Digital POST** サービス内容

スマートフォンやパソコンからメッセージや写真を添えてカードを作り、送り先の住所を入力するだけで、すぐにその場でオリジナルの絵はがきや手紙を送ることができます。  
印刷手配やポスト投函の手間はかかりません。



上場企業の経営課題とは



■ 成長戦略の策定支援

- 経営課題を踏まえた上で、中長期的な視点に立ち、成長戦略及び中期経営計画の策定を支援
- 事業提携の推進による収益基盤の更なる強化
  - 新規事業創出による新たな収益基盤の構築

■ 成長戦略の実行支援

- 営業力・事業企画力を持つ取引先の紹介
- 顧客候補の紹介
- グローバル化の支援

■ 資本政策の助言

- 資本政策の策定支援
- 資金調達の実務支援

■ IR の強化支援

- コーポレート・メッセージの構築支援
- 株式流動性向上

上場企業向け経営戦略セミナー

Oak キャピタルは投資事業におけるサービス活動の一環として、成長を目指す上場企業の経営者を対象に無料セミナーを定期的に開催しております。

変化の激しい経営環境のもと、ますます激化する企業間競争に打ち勝つには何が必要なのかについてのヒント、自社の成長戦略を市場に伝えることの重要性に関する示唆、自社株式の流動性向上のノウハウなど、毎回異なる多岐にわたる内容を取りあげ、有益な情報を提供しております。



# 連結財務諸表〈要旨〉

連結貸借対照表 2012.9.30

(単位：百万円)

科目	前期	当中間期
<b>資産の部</b>		
流動資産	1,841	1,682
現金及び預金	176	340
受取手形及び売掛金	134	112
営業投資有価証券	1,017	671
商品及び製品	160	162
その他	354	396
貸倒引当金	△ 3	△ 0
固定資産	567	559
有形固定資産	58	54
無形固定資産	5	5
投資その他の資産	503	499
繰延資産	30	22
資産合計	2,439	2,264

注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 総資産

総資産は、前期末に比べて、1億74百万円減少し、22億64百万円となりました。

主な要因は、投資回収により、現金金が1億63百万円増加し、営業投資有価証券が3億46百万円減少したためであります。

(単位：百万円)

科目	前期	当中間期
<b>負債の部</b>		
流動負債	466	482
支払手形及び買掛金	33	36
短期借入金	289	282
1年内返済予定の長期借入金	7	7
その他	136	156
固定負債	81	80
長期借入金	10	6
退職給付引当金	52	56
その他	18	17
負債合計	548	563
<b>純資産の部</b>		
株主資本	2,139	2,005
資本金	3,145	3,148
資本剰余金	1,644	1,648
利益剰余金	△ 2,639	△ 2,782
自己株式	△ 9	△ 9
その他の包括利益累計額	△ 264	△ 322
新株予約権	5	5
少数株主持分	10	13
純資産合計	1,891	1,701
負債純資産合計	2,439	2,264

注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 純資産

純資産は、前期末に比べて、1億90百万円減少し、17億1百万円となりました。

主な要因は、四半期純損失1億42百万円の計上及びその他有価証券評価差額金が57百万円減少したためであります。



連結損益計算書 2012.4.1-2012.9.30

(単位：百万円)

科目	前中間期	当中間期
売上高	462	1,036
売上原価	372	690
売上総利益	89	346
販売費及び一般管理費	472	474
営業損失(△)	△ 382	△ 128
営業外収益	5	9
営業外費用	10	13
経常損失(△)	△ 388	△ 133
特別損失	0	1
税金等調整前四半期純損失(△)	△ 388	△ 134
法人税、住民税及び事業税	3	5
法人税等調整額	△ 0	△ 0
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△ 391	△ 139
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△ 0	2
四半期純損失(△)	△ 390	△ 142

注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 営業損失

売上高は、前期に比べて、5億74百万円増加し、10億36百万円となりましたが、投資事業は、投資回収時期と費用の発生時期が異なるため、当第2四半期では、販売管理費を吸収しきれず、1億28百万円の営業損失となりました。

## 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、当第2四半期連結累計期間において1億77百万円のキャッシュ・インフローとなりました。その主な要因は、営業投資有価証券の減少(投資回収)によるものであります。

## 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、当第2四半期連結累計期間において11百万円のキャッシュ・アウトフローとなりました。その主な要因は、貸付けによるものであります。

連結キャッシュ・フロー計算書 2012.4.1-2012.9.30

(単位：百万円)

科目	前中間期	当中間期
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 187	177
投資活動によるキャッシュ・フロー	46	△ 11
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 8	△ 4
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 0	0
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△ 149	161
現金及び現金同等物の期首残高	463	172
現金及び現金同等物の四半期末残高	314	333

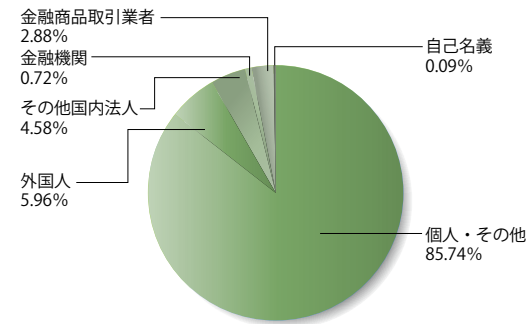
注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、当第2四半期連結累計期間において4百万円のキャッシュ・アウトフローとなりました。その主な要因は、借入金の返済が新株予約権の行使による株式の発行による収入を上回ったためであります。

発行可能株式総数.....86,000,000 株  
 発行済株式の総数.....22,422,244 株  
 株主総数.....15,919 名

所有者別株式数分布状況

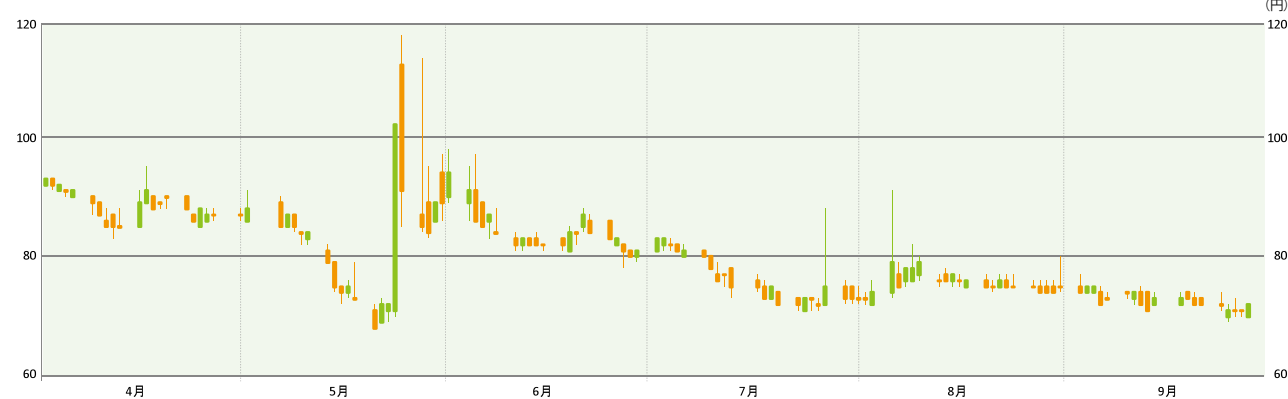


注) 端数処理の関係で合計は 100% になりません。

大株主 上位 10 名

株主名	所有株式数	持株比率
エスアイエックス エスアイエス エルティーディー	1,282 千株	5.72 %
山崎 光博	754	3.37
竹井 博康	725	3.23
エルエムアイ株式会社	553	2.47
木村 正明	250	1.11
斉藤 恒利	218	0.97
楽天証券株式会社	211	0.94
マネックス証券株式会社	209	0.94
山田 晴信	197	0.88
利川 守信	179	0.80

株価の推移 (2012年4月~9月)



会社概要

商 号	Oak キャピタル株式会社	市 場	東証第二部 (上場 1949 年)
創 業	1868 年	主幹事証券	大和証券
設 立	1918 年	会計監査人	監査法人 日本橋事務所
資 本 金	31 億 48 百万円	取 引 銀 行	三井住友銀行、みずほコーポレート銀行

役員

代表取締役会長 兼 CEO	竹井 博康	
取 締 役	秋田 勉	管理本部長 兼 経理財務部長
取 締 役	緒方 健介	投資事業本部
取 締 役 <sup>*1</sup>	尾関 友保	元 アクセンチュア株式会社 パートナー
取 締 役 <sup>*1</sup>	宇田 好文	元 株式会社 NTTドコモ 代表取締役副社長
執 行 役 員	長谷川 隆也	事業戦略室長
執 行 役 員	磯村 康典	事業戦略室
執 行 役 員	木戸 康行	投資事業本部
常 勤 監 査 役	高橋 英也	
監 査 役 <sup>*2</sup>	永野 義一	弁護士
監 査 役 <sup>*2</sup>	坂井 眞	弁護士
監 査 役 <sup>*2</sup>	廣瀬 元亮	
顧 問	山田 晴信	元 HSBC グループ 香港上海銀行 在日副代表 兼 副 CEO
顧 問	小田嶋 清治	税理士 元 仙台国税局長
顧 問	Hong Liang Lu	元 UTStarcom, Inc. 取締役社長 兼 CEO

※1. 会社法第2条第15号に定める社外取締役です。  
 ※2. 会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年の3月31日まで  
 定時株主総会 毎年6月  
 基準日 定時株主総会については3月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日  
 配当金受領株主確定日 3月31日及び中間配当金の支払いを行うときは9月30日  
 公告の方法 電子公告とします。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は日本経済新聞にて公告します。  
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)  
 (電話照会先) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

■住所変更、単元未満株式買取・買増等のお申し出先について  
 株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。  
 なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

■株主様のご住所・お名前に使用する文字に関するご案内  
 株券電子化実施に伴い、株主様のご住所・お名前の文字に、株式会社証券保管振替機構(ほふり)が振替制度で指定していない漢字等が含まれている場合は、その全部または一部をほふりが指定した文字またはカタカナに変換して、株主名簿にご登録いたしております。このため、株主様にご送付する通知物の宛先が、ほふりが指定した文字に置換えられる場合がありますのでご了承ください。株主様のご住所・お名前として登録されている文字については、お取引の証券会社等にお問い合わせください。



<http://www.oakcapital.jp>

## Oak キャピタル株式会社 証券コード：3113

<http://www.oakcapital.jp/>

〒107-0052 東京都港区赤坂八丁目10番24号 住友不動産赤坂ビル  
本 社 TEL.03-5412-7474 FAX.03-5412-8282  
投資事業本部 TEL.03-5412-7700 FAX.03-5412-8811



Facebook

[facebook.com/oakcapital](https://www.facebook.com/oakcapital)